

私は外出時句帳を必ず携帯します。ケータイは時々忘れますが句帳は忘れないようにしております。何でもいいのですが、あっと思ったことは出来るだけメモしてその場で五七五に書き留めます。これをもとに季語を入れて俳句を作ります。先に投稿しました畑作業の時は大体が季語に相当する物を扱いますから、よーおっし俳句を作ろうと、一休みして俳句を書き留めます。無論、仕事の時、俳句は忘れております。終わらばつと俳句モードに頭を切り替えるようにしております。最近、俳句どころではないほど季節に追われる作業が多く、作句のペースが大分落ちました。俳句は生活の糧にはなりませんので趣味の一つではありますが、私は俳句を生活の方法として、日々是俳句と思って、これを念頭に何にでも興味を持って雑学をしております。俳句は虚の世界、詩の世界、日々の生活は実の世界、二つの世界を行ったり来たりしている感覚が私には面白いのです。実の生活が厭で俳句に逃げているわけではありません。虚にみて実を行ふべしの芭蕉の言葉を私なりに解釈して日々を過ごすしております。変易(へんやく)生死(しょうじ)もその意識であります。

俳句を始めたきっかけは、家内がひそかに俳句を作っていることを知り、私も負けじと思ったことですが、昭和60年(1985)勤務先が筑波の研究所に変わり、冬の朝屋上から遠くに眺められる日光連山や目の前の筑波山の景色をメモして心を慰めていたこともきっかけになったと思います。

二年ほどの独学を経て、山口誓子先生を迎えての八重洲句会に出て勉強しましたが、今から見ると誓子晩年六年間の選を受けたに過ぎません。私にとって初学の頃の俳句の師でありまして、いまだに誓子俳句を通しております。自然の物を写生し、物と物との結合を把握し、その物を客観描写によって、季節感を詠ふというのが誓子俳句であります。これが芭蕉から伝わった正統俳句であると仰るので、芭蕉も勉強しましたし、その足跡も少しずつ訪ね歩きました。遍路も部分的に歩いたり、富士登山や京奈良の行事を取材したりしましたが、最近、前述の通り無理をせず、生活の流れのままに作句しております。これからは、私にとって新しい季語に挑戦した俳句を作りたいと思っております。右の写真は最近のもので、その時の私の句を下に示しておきます。

五月富士得たり思はず手と合はず
 練供養穢土より浄土よく見える
 船発つば鉾杉山の特鳥
 睡蓮の巻葉水面(みのも)と立らあがり

以下は蛇足かも知れませんが、敢えてここに書いておきます。俳句は日本固有の文芸であり、一見簡単でありますし、どんな仕事とも両立します。サーツ会員の中にも俳人がおられるようですが、今からでも遅くはありませんので、俳句でも捻って見ませんか。その際、肝腎なことは、良い師を選ぶことです。



我家から見える富士山(2010/5/13)



練供養(2008/5/14 当麻寺)



山湖会の句会(2008/6/28 箱根)



小石川後楽園(2010/5/7)